

# 平成26年度

## 登録左官基幹技能者認定試験問題（60分）

### 近畿ブロック

受講番号		氏名	
------	--	----	--

1. 試験時間 60分

2. 問題数 25題（四肢択一法）

3. 注意事項

- (1) 試験開始の合図があるまで、この問題冊子はあけないでください。
- (2) 受講番号と氏名は、問題用紙および解答用紙のそれぞれの所定の欄に必ず記入してください。
- (3) 本冊子は、表紙を含めて10頁です。次に、問題数を確かめてください。落丁、乱丁、印刷不鮮明の箇所などがあつた場合には、黙って手を上げて申し出てください。
- (4) 試験開始の合図で始めてください。
- (5) 解答の方法は、次のとおりです。
  - ①正解と思うものを、1～4の番号の中から1つだけ選んで、解答用紙の解答欄にその番号を、黒の鉛筆またはシャープペンシルで記入してください。
  - ②解答を訂正する場合は、訂正する解答を、プラスチック消しゴムできれいに消した後、新しい解答を記入してください。  
消し方が不十分な場合は、2つ以上解答したこととなり正解としません。
  - ③受験番号および選択した番号を正しく記入していないものは、採点せず全問題を0点とすることがあります。
- (6) 電子式卓上計算機、携帯電話の計算機能その他これと同等の機能を有するものは、使用してはいけません。
- (7) 試験中、質問があるときは黙って手を上げてください。ただし、試験問題の内容、漢字の読み方等に関する質問にはお答えできません。
- (8) 答案ができあがったら、監督者の指示に従って提出してください。ただし、試験開始30分以内の場合は、退出できないので、静かに着席しててください。

一般社団法人 日本左官業組合連合会

以下の問題をよく読み、解答用紙に正解番号を記入しなさい。

**問題 1 登録基幹技能者に関して最も不適当なものはどれか。**

1. 建設産業において、生産性の向上を図るとともに、品質、コスト、安全面で質の高い施工を確保していくためには、直接生産活動に従事する技能労働者の果たす役割がますます重要になっている。
2. 現在、各専門工事業団体において、適切な施工方法、作業手順についての提案・調整、一般技能者に対する効率的な指揮指導を行うことのできる基幹技能者の確保・育成・活用が進められている。
3. 登録基幹技能者には、建設現場でのマネジメントに関する知識のみが求められている。
4. 登録基幹技能者になるためには、施工管理、工程管理、資材管理、原価管理、品質管理、安全管理及び OJT 管理に関する知識を習得することが求められる。

**問題 2 登録左官基幹技能者講習を受講するための要件に関して、最も不適当なものはどれか。**

1. 1 級左官技能士、2 級建築施工管理技士（仕上げ）等の資格の保有
2. 玉掛けまたはクレーン等の運転に関する資格の保有
3. 左官職種に関する 10 年以上の実務経験
4. 左官職種に関する実務経験のうち職長経験年数 3 年以上

**問題 3 登録基幹技能者の現場業務の内容に関して、最も不適当なものはどれか。**

1. 現場の状況に応じた施工方法等の提案、調整等を行うこと
2. 現場作業所における写真の管理や出面（でづら）のチェックを行い、全ての職種の作業状況等の管理を行うこと
3. 生産グループ内の技能者に対する施工に係る指示、指導を行うこと
4. 前工程・後工程に配慮した他の職長との連絡・調整を行うこと

問題4 建設現場に備えておかなければならない施工体制台帳に記入することができる内容に関して、最も不適当なものはどれか。

1. 主任技術者名と資格の内容
2. 登録基幹技能者名とその種類
3. 登録基幹技能者の得意とする作業の内容
4. 専門技術者名と資格の内容および担当工事の内容

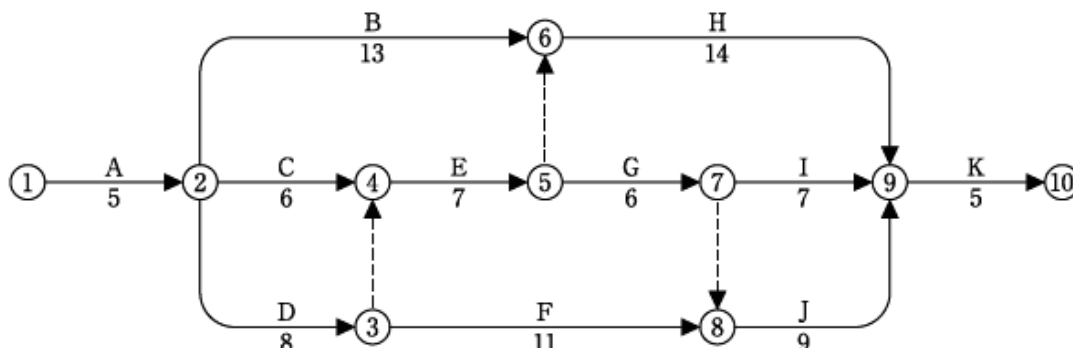
問題5 公共工事における登録基幹技能者の評価・活用に関して、最も不適当なものはどれか。

1. 近年、国や都道府県の総合評価落札方式の入札工事において、登録基幹技能者の配置を加点の対象とする等、登録基幹技能者の評価と活用が行われている。
2. 登録基幹技能者等の公共工事での活用については、平成23年度にはすべての国土交通省地方整備局が導入しはじめた。
3. 国土交通省地方整備局における入札公告時の登録基幹技能者の配置をするにあたっての評価項目は、「技術提案」、「技術力」、「施工能力」等である。
4. 登録基幹技能者の評価・活用は、建築工事のみに限定されており、土木工事には適用されない。

問題6 OJT教育における指導方法において「教える」ことに続く内容に関して、最も不適当なものはどれか。

- 「1. 教える」→「2. 評価する」→「3. やらせてみる」→「4. 修正する」

問題7 下図の工程表に関して、最も不適当なものはどれか。



1. この工程表は、ネットワーク式工程表である。
2. この工程表に示されている  $\xrightarrow[A]{A}$  において、A は作業名、5 は所要日数、矢線 (→) はアクティビティといい、作業そのもののことである。
3. この工程表に示されている  $\text{-----}\rightarrow$  は、「ダミー」といい、作業名は無いが、作業は行っている。
4. この工程表の○印は、作業同士の結合点を示したものである。

問題8 建設業法遵守ガイドラインの内容に関して、最も不適当なものはどれか。

1. 建設産業は、激しい競争の時代に突入していることから、ダンピング等を積極的に行い、この競争に勝ち残った優れた企業が生き残り、伸びていくことが求められている。
2. 建設業においては、適切な施工能力を有しないペーパーカンパニーなどの不良・不適格業者の存在を始め、一括下請負、技術者の不専任、不適正な元請下請関係等の法令違反が問題となっている。
3. 現在では、建設業に対する国民の信頼の回復、建設業の魅力の向上のため、建設業者が法令遵守を徹底することが求められている。
4. 不当に低い請負代金、指値発注、赤伝処理等の不適正な元請下請関係については、どのような行為が法令に違反するかを示した通達等が定められておらず、違法であるという認識のないまま法令違反行為が繰り返されている可能性がある。

問題9 建設業法の第一章「総則」に記載されている内容に関して、最も不適当なものはどれか。

1. 建築基準法の「目的」
2. 「建設工事の請負契約の原則」
3. 「建設工事の請負契約の内容」
4. 「不当に低い請負代金の禁止」

問題10 ブレーンストーミング(BS)の手法を用いて行う場合に関して、最も不適当なもののはどれか。

1. 連鎖反応により豊富で多彩な情報を得ることができる。
2. 競争心により自由で活発な意見を得ることができる。
3. ゲーム感覚で話し合いをすると、情報が錯そうし、楽しいだけで終わってしまう可能性があるので注意しなければならない。
4. 5～7人程度の人数で行うと、適切な情報をうまくまとめることができる。

問題11 住宅瑕疵担保責任保険設計施工基準の記述に関して、最も不適当なものはどれか。

1. 通気構法において、外壁に用いる防水紙は、JIS A 6111 に適合する透湿防水シートまたはこれと同等以上の透湿性能および防水性能を有するものとする。
2. 防水紙の重ね合わせは、縦、横とも 90mm 以上とする。
3. 直張りの防水紙は、JIS A 6005(アスファルトルーフィングフェルト)に適合するアスファルトフェルト 430 または透湿防水シートとする。
4. 外壁開口部の周囲は、防水テープを用い防水紙を密着させることとする。

問題12 JIS A 6909 (建築用仕上塗材)の仕上塗材の種類と呼び名の組み合わせに関して、最も不適当なものはどれか。

1. 内装せつこう系薄付け仕上塗材 — 内装薄塗材G
2. 外装合成樹脂エマルジョン系薄付け仕上塗材 — 外装薄塗材E
3. 内装水溶性樹脂系薄付け仕上塗材 — 内装薄塗材W
4. 内装消石灰・ドロマイトプラスター系薄付け仕上塗材 — 内装薄塗材C

**問題 1 3 セメントモルタルの表面仕上げの記述に関して、最も不適当なものはどれか。**

1. セメントモルタルによるタイル張りの下地は、木鏝仕上げにする。
2. 壁紙張り下地、防水下地は、金鏝仕上げにする。
3. タイルの接着剤張りの下地は、刷毛引き仕上げにする。
4. 吹き付け仕上げのセメントモルタル下地は、刷毛引きで粗面にする。

**問題 1 4 仕様書等の組み合わせに関して 最も不適当なものはどれか。**

1. 国土交通省大臣官房官庁営繕部監修 — 公共建築工事標準仕様書
2. (一社) 日本左官業組合連合会編 — 左官施工法 2013
3. 国土交通省大臣官房官庁営繕部監修 — 建築工事監理指針
4. (一社) 日本建築学会編 — 建築工事標準仕様書 JASS 19 (左官工事)

**問題 1 5 塗り壁の故障の組み合わせに関して、最も不適当なものはどれか。**

1. 下地の吸水小 — はく離・ひび割れ — 吸水調整材を原液にする。
2. 細かい砂 — 網状ひび割れ — 粗めの砂を混ぜる。
3. さび止めしない鉄部 — さび発生 (せっこうプラスター) — さび止めを行う。
4. ドカ付け — ひび割れ — つけ送りをを行う。

問題 16 コンクリート表面の処理方法に関して、最も不適当なものはどれか。

枝番	処理方法	適用目的	概要	留意点
1.	高圧水洗浄	目粗し、脆弱層の除去	高圧水洗いの吐出圧力50～150N/mm <sup>2</sup> 、吐出圧と運行速度は、コンクリート強度などによる。	下階への水対策を検討する必要がある。
2.	サンダー掛け	目粗し、脆弱層の除去	ディスクサンダーあるいは、カップサンダーによって、コンクリート表面に目粗し、水洗いにより表面に付着した粉塵を除去する。	特別な工具を必要とせず、作業は容易、埃や音の発生がある。施工のばらつきが出やすいので、見本などを作成し管理する。
3.	ブラシ掛け	清掃、脆弱層の除去	刷毛あるいは、左官用ブラシによりコンクリート表面を擦り、塵埃や脆弱層を除去する。	作業は簡単だが、施工管理が曖昧となりやすい。水洗いを併用する。
4.	専用シートによる凹凸処理	コンクリート表面への凹凸付与	ポリエチレンフィルム製専用シートを型枠に取り付け、コンクリート表面への凹凸を付与し、それがモルタルに食い込むことにより、はく離を防止する。	専用シートの廃材が発生するため、その処理対策を講じておく必要がある。

問題 17 左官下地と塗り層との寸法変化（ムーブメント）に関して、最も不適当なものはどれか。

1. 熱冷ムーブメントをサーマルムーブメントという。
2. 相対ムーブメントをディファレンシャルムーブメントという。
3. 熱冷ムーブメントとは、湿潤と乾燥の繰り返し変化によっておきる変形挙動をいう。
4. 相対ムーブメントとは、異なった材料の境界面でおきる変形挙動をいう。

**問題 18 ALC パネルの記載に関して、最も不適当なものはどれか。**

1. ALC パネルの欠損部の補修には、反応硬化形で剛性・強度の大きな合成樹脂を用いる。
2. ALC パネル下地は、工場でオートクレイブ（高温・高圧養生）した超軽量コンクリートパネルである。
3. ALC パネルは、厚塗りを行ってはならない。
4. ALC パネルジョイント部は、パネル取付け構法に応じた所定の位置や、出入隅部、他部材との取合い部にも伸縮目地を設ける。

**問題 19 施工管理における三大管理とその関連性に関して、最も不適当なものはどれか。**

1. 工程と原価の関係は、施工速度を上げると単位時間当たりの出来高が増え、原価は安くなる。
2. 原価と品質の関係は、品質の良いものは安くできるが、品質を悪くすると原価は高くなる。
3. 品質と工程の関係は、品質の良いものは一般に時間がかかり施工速度は遅くなるが、品質を下げると施工速度は上がる。
4. 工程と原価の関係は、施工速度を上げ過ぎると突貫作業となり、逆に原価は高くなる。

**問題 20 工程計画の目的及び作業手順に関して、最も不適当なものはどれか。**

1. 各工程（各部分工事）の施工順序を決定する。
2. 工事全体の作業日数を算定し、各工程（各部分工事）に割り振る。
3. 機械、設備の規模・台数などを決定する。
4. 実施工程表を作成する。

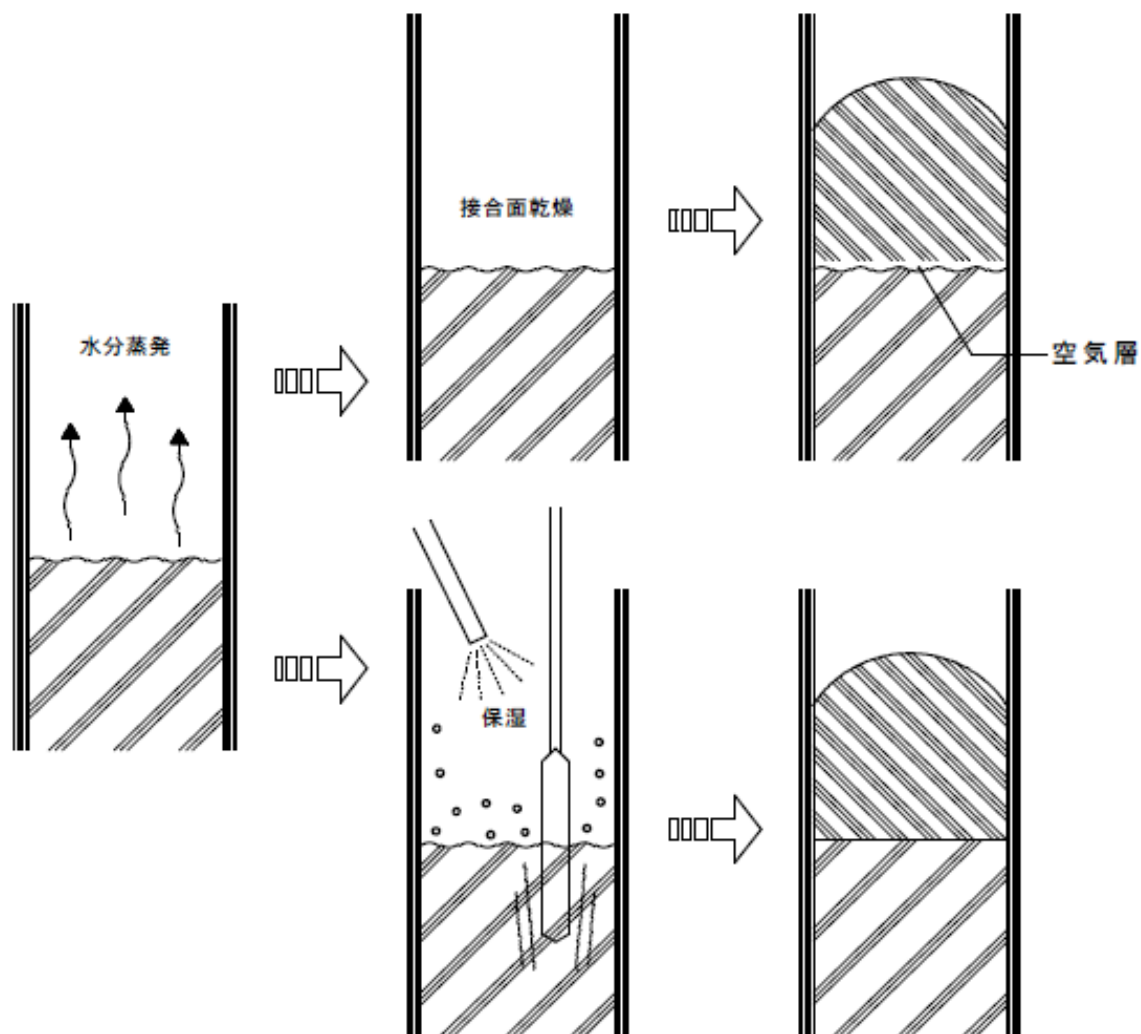
**問題 21 建設工事の原価に関して、最も不適当なものはどれか。**

1. 実行予算は、工事を受注できた後に、元積もりの通りに作成し、現場の予算管理に利用する。
2. 予定価格は、全体の事業予算などに関係し、発注者が決定するものである。
3. 元積もりは、ゼネコンなど元請建設会社自らが最初に行う原価予測である。
4. 事後原価は、工事が終了して初めて明らかになる原価である。



問題22 コールドジョイント防止対策に関して、最も不適当なものはどれか。

1. コンクリートの接合不良は接合面に取り残された空気によって生じることが多い。
2. 接合面が乾燥していると、微妙な凹凸面に空気層ができ易く、コールドジョイントが発生し易い。
3. 下図の下段のように、以前に打ち込んだまだ固まらないコンクリートの打継ぎ部分にバイブレーター等で振動を与えてはならない。
4. 下図の下段のように、コンクリート接合面の乾燥を防ぐために、散水などで湿潤させることは有効である。



**問題 2 3 わが国の建設業における労働災害の現状についての次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。**

1. 労働災害とは、労働者が就業中や通勤途上などで負傷、疾病、障害、死亡する災害のことをいう。
2. わが国の建設業における近年の死亡者数は、年に 1,000 人を超える。
3. 建設工事全体の死亡事故の型別でみると、墜落による事故が 45%と圧倒的に多い。
4. 建設業の安全対策が難しい理由の一つとして、多業種の専門工事業者が作業しているため、各作業間の連絡・調整を図るのが困難であることが挙げられる。

**問題 2 4 法で定められた建設現場における安全管理についての次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。**

1. 複数業者が混在する現場の 1 次下請けや 2 次下請けの業者は、安全衛生責任者を選任する必要がある。
2. 現場では、整理、整頓、清潔、清掃の「4S」に努め、廃棄物は決められた場所に捨てることを徹底する必要がある。
3. 現場労働者数の合計が 50 人の場合、1 人の安全衛生責任者を選任すれば良く、特に統括安全衛生責任者を必要としない。
4. 作業主任者の配置が必要な作業として、高さ 5m 以上の足場の組立または解体の作業がある。

**問題 2 5 各種労働災害防止対策についての次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。**

1. 既存建築物は石綿が使用されているものも多く、その建築物の解体工事では石綿による健康障害防止対策を講じる必要がある。
2. 熱中症予防対策として、WBGT（暑さ指数：湿球黒球温度）値を使用することが有効である。
3. 高さ 2m 以上の所で 足場作業や鉄骨作業などを行う場合、作業床を設置しなければならない。これが困難な場合は、落下防止ネットを張り、作業員に安全帯を使用させる必要がある。
4. リフォーム工事では、電気やガスなどが既に設置されているので、各種工事に支障をきたすことはなく安全作業に問題はない。